

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【保健体育科】

1. 対象 中学校 第1学年
2. 単元（題材）名 「 器械運動（マット運動） 」 （全8時間）
3. 単元（題材）で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うことができるようにするとともに、条件を変えた技や発展技ができ、それらを組み合わせで行うことができる。</li> <li>・多くの「技」の名称や行い方、運動観察の方法や体力の高め方を理解している。</li> </ul>
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。</li> </ul>
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マット運動に積極的に取り組み、よい演技を認めようとするとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、健康・安全に気を配って活動しようとしている。</li> </ul>

4. 本時の目標

自分が挑戦する技の課題点を見つけ、仲間とともに解決方法を考えて練習する活動を通して、課題を解決して技の完成度を高め、美しい技に近づけることができる。

（学習指導要領 B 第1学年（1））【運動についての知識・技能】

5. 授業展開【**本時**・単元（題材）】 ※本時または単元（題材）いずれかに○を付けてください。

<b>解決したい課題や問い</b>	
どうすれば美しい技になるだろう？	【本時】
美しい演技とは何か？	【単元】

<b>考えるための材料</b>	
技の手本となる動画、実技本のイラスト	
想定される活動	
技に取り組む前に動画を見ることで、技の動きのイメージをつかむ。 動画やイラストと自分の技（動き）を比較することで、課題点を探ったり、修正すべき点を明らかにしたりする。	
ワークシート『技の一覧表』	
想定される活動	
本時までに取り組んできた技を振り返り、自分が取り組んでいる技とのつながりに気付く。 特徴につながりがある技に、共通する動きと異なる動きを把握し、技の完成のためにどんなことを意識したらよいか考える。	

<b>対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループは4人～5人とし、各グループにマットを1枚用意する。また、各マットに手本の動画を視聴するためのタブレット端末と自分を撮影して動きを確認する用のタブレット端末を配置する。 ⇒これにより、手本と自分の動きを同時に確認できる。「おへそを見ることができていない」や「腕が曲がっていてバランスが取れていない」など、細かく確認したり助言したりする姿が見られると考える。</li> <li>・グループは技の達成度、到達度に応じて決定する。（能力が偏らないようにする。）マット運動が苦手</li> </ul>	

な生徒も助言ができるよう、着目すべき点（例 着手の位置、回転の速さ、視線等）を示す。

⇒「手のつく位置が遠いからもう少し自分のほうについたほうがいい」や「回転が遅いから足を伸ばして回ってみたら？」など、具体的な助言をすることにつながると考えられる。

#### 学習の成果（予想される子供のあらわれ）

- ・開脚前転で足を開くタイミングを遅くしたら、足が大きく開いたまま立つことができた。
  - ・いつも後転は右側に曲がっていたが、手をつく位置を意識したらまっすぐ回ることができた。
  - ・倒立前転で、回転の時に腰を少し曲げてみたら、音を立てずになめらかに回れた。
- これらの内容が学習カードに記載されるような学習カードとし、毎時間回収して確認する。